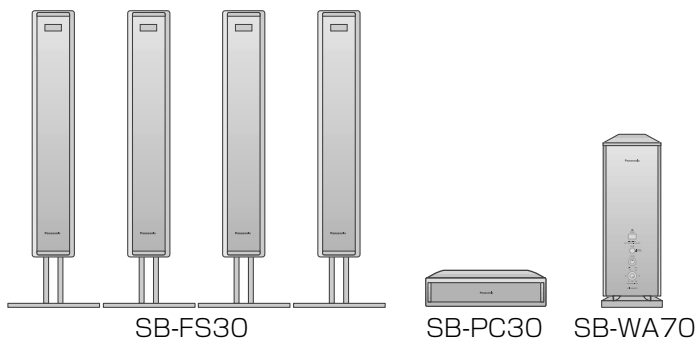
防磁設計 社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

Panasonic®

取扱説明書
スピーカーシステム

品番 SB-TP30

このたびは、スピーカーシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

■この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**特に「安全上のご注意」（2～3ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。**

■保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

保証書別添付

上手に使って上手に節電

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

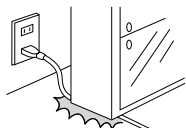
■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

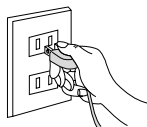
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

電源コードについて

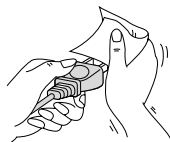
電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全ですと、感電や、発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

- 感電の原因になります。

雷について

雷が鳴ったら、機器やプラグに触れない

- 感電の恐れがあります。

もし異常が起こったら

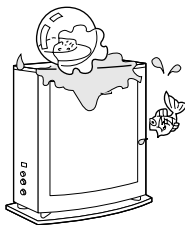
異常があったときは電源プラグを抜く

- **機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき**
- **煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき**

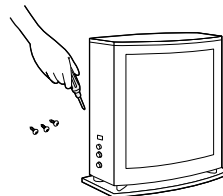
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

⚠警告

ご使用について

機器内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたり濡らしたりしない

- ショートや発熱により火災や感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造したりしない

分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

⚠注意

設置・接続について

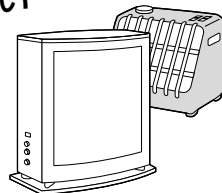
不安定な場所に設置しない

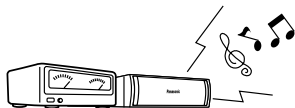
- 上に大きなもの、重いものを載せない
- 取扱説明書に記載されている以外の方法で壁などへ取り付けない（SB-FS30/SB-PC30）
- 壁や天井に取り付けない（SB-WA70）
- 高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

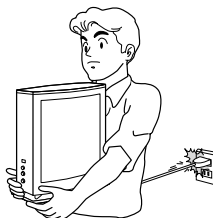
油煙や湯気の当たるところや、湿気やほこりの多いところに置かない

- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

スピーカーの許容入力を超えるアンプに接続しない

- 定格以上の出力を持つアンプに接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。（SB-FS30/SB-PC30）

ご使用について

コードを接続した状態で移動しない

- 接続した状態で移動させせようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

機器に乗らない

- フロント／サラウンドスピーカーのスタンドベースの上に乗って、スピーカー本体をゆらしたりしないでください。
- 倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 特にお子様にはご注意ください。

同梱品の確認

■スピーカーシステムの構成

スピーカーシステム	SB-FS30×4台	（一体梱包）
スピーカーシステム	SB-PC30×1台	
アクティブサブウーハー	SB-WA70×1台	

- スピーカーシステム（SB-FS30）は4台とも同じです。フロント（左、右）、サラウンド（左、右）スピーカーとしてご使用ください。
- スピーカーシステム（SB-PC30）はセンタースピーカーとしてご使用ください。
- アクティブサブウーハー（SB-WA70）はサブウーハーとしてご使用ください。

■付属品の確認

まず最初に付属品を確かめてください。

SB-PC30用

□スピーカーコード.................................... 1本
(REE1203A) 約4 m

SB-FS30用

□スタンドパイプ組立品（コード約10 m）..... 4本
(RYQ0463A-S)

□スタンドベース.. 4本
(RYQ0470-S)

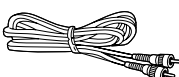
□スタンドベース取り付けネジ................. 8本
(XSS6+14FZ)

□スピーカースタンド取り付けネジ.......... 8本
(XSN5+10FN)

付属のスピーカースタンド部品は、SB-FS30スピーカーシステムに取り付けるための専用金具です。この組合せ以外にはご使用できません。

SB-WA70用

□電源コード.. 1本
(K2CA2CA00010)
付属の電源コードは、本機専用です。
他の機器に使用しないでください。

□ピンコード.. 1本
(RJL1P015B50) 約5 m

付属品の買い替えは、お買い上げの販売店へご相談ください。
(　)内は買い替え時の品番です。

組み立て・設置について

前面のネットに無理な力を加えないでください。前面のネットは取り外しができません。組み立てるときは、平らな面の上に置き、傷付き防止のため必ず布などを敷いてください。
各作業でのネジ止めは、ゆるみのないようしっかり締めてください。

フロントおよびサラウンドスピーカー（SB-FS30）

■組み立て

- スピーカー本体はネット側を下向きに置きます。
- スピーカー本体にスピーカースタンドを取り付けるときは、梱包ケースを下に敷くと安定して取り付けできます。

❶ スピーカースタンドを組み立てる

① **スタンドパイプ組立品のコードの先端をスタンドベースの溝のある穴から通す**
- スタンドパイプ組立品（コード約10 m）：フロントおよびサラウンドスピーカー用
- ベース底面の一番大きな穴からコードを引き出す。

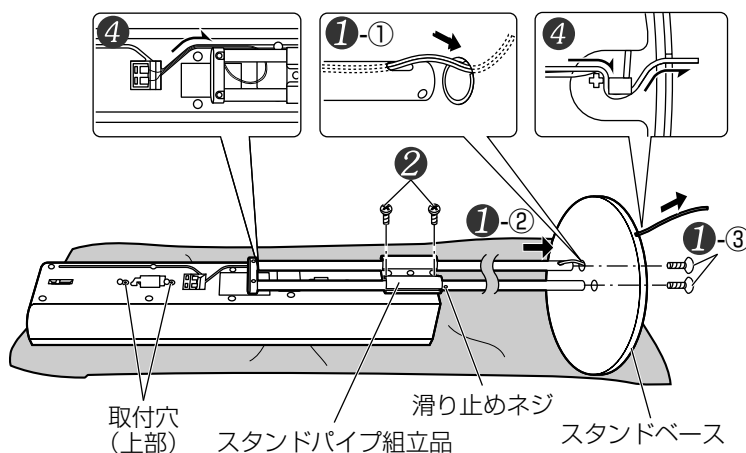
② **スタンドパイプ組立品をスタンドベースの奥まで差し込む**
コードを同時に引き出してください。

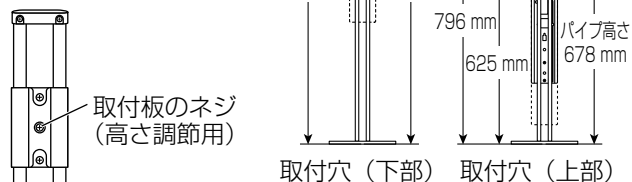
③ **スタンドベース取り付けネジ（付属）でスタンドベースを取り付ける**
左右交互に締め、最後にしっかり締める。

❷ **スピーカースタンドをスピーカースタンド取り付けネジ（付属）で、スピーカー本体に取り付ける**
- 取付穴（下部）または（上部）への取り付けは、高さ調整のしかた（☞5ページ）を参照してください。
- 上下交互に締め、最後にしっかり締める。
- 滑り止めネジは外さないでください。スピーカーが滑り落ちる恐れがあります。

❸ **スピーカーコードを接続する**
スピーカーコードの接続（☞5ページ）を参照してください。

❹ **余ったコードを引き出し、スピーカーの溝にはめ込み、コードをスタンドベース底面に固定する**

取付穴（下部）への取り付け例

■高さ調整のしかた

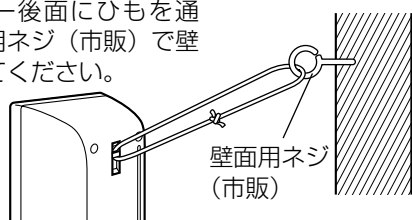
❶ 4ページの組み立て手順❸の後、取付板のネジをゆるめてスピーカー本体の高さを調節し、ネジをしっかり締める

- ネジをゆるめすぎるとスピーカー本体が外れます。
- お使いのテレビの高さと合わせると、よりよい効果が得られます。

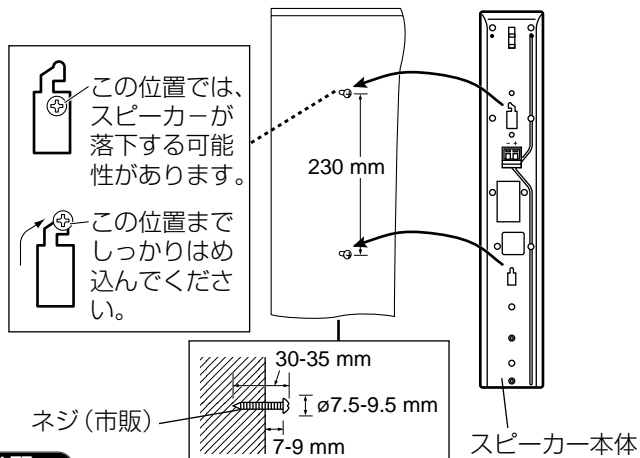
❷ スピーカーコードを処理する

（☞4ページの組み立て手順❹）

■転倒防止のために

スピーカー後面にひもを通し、壁面用ネジ（市販）で壁に固定してください。

お願い

取り付ける壁には、10 kg以上の重量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。

■壁掛けするには

お願い

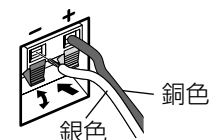
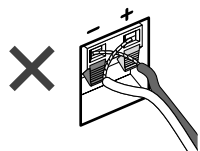
取り付ける壁には、10 kg以上の重量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。

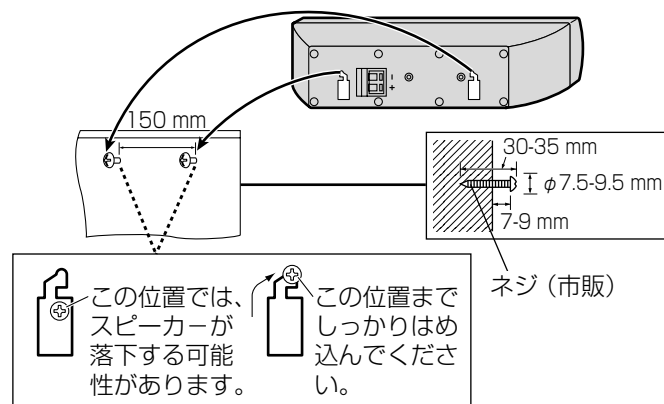
■スピーカーコードの接続

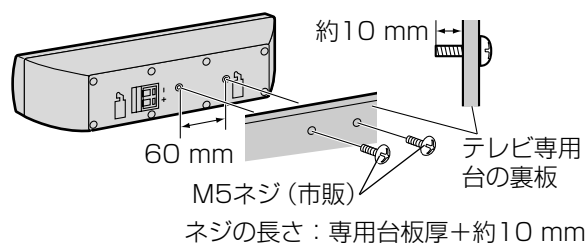
スピーカーコードの色をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。

❶ スピーカーコードの先端表皮をねじりながら、抜き取る

❷ 端子の穴が見えるまでレバーを押し、芯線を差し込んで離す。

お願い

- スピーカーコードの銅色側(＋)と銀色側(−)は絶対にショートさせないでください。

センタースピーカー（SB-PC30）

■壁掛けするには

■うしろからネジ止め可能なテレビ専用台に取り付けるには

ネジの長さ：専用台板厚＋約10 mm

お願い

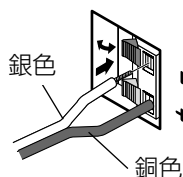
取り付ける壁、専用台は10 kg以上の重量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。

■スピーカーコードの接続

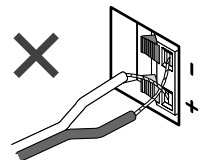
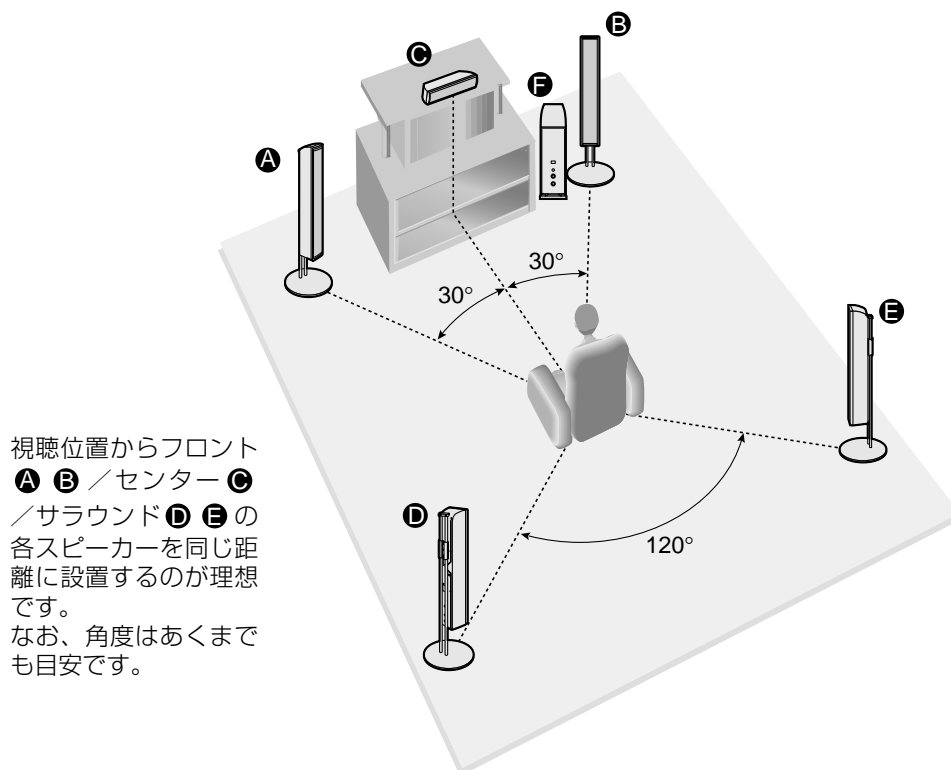
スピーカーコードの色をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。

❶ スピーカーコードの先端表皮をねじりながら、抜き取る

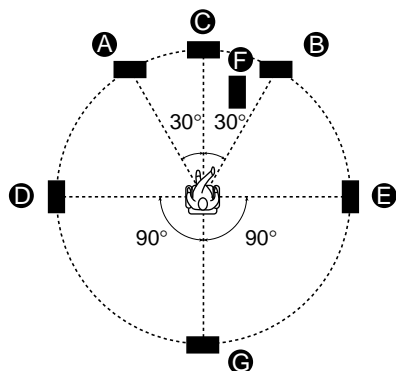
❷ 端子の穴が見えるまでレバーを押し、芯線を差し込んで離す

お願い

- スピーカーコードの銅色側(＋)と銀色側(−)は絶対にショートさせないでください。

設置のしかた

■設置例

視聴位置からフロントⒶⒷ／センターⒸ／サラウンドⒹⒺの各スピーカーを同じ距離に設置するのが理想です。
なお、角度はあくまでも目安です。

- フロントスピーカー（Ⓐ左、Ⓑ右：SB-FS30）
  テレビの左右に設置してください。
- センタースピーカー（Ⓒ：SB-PC30）
  テレビの真上か真下に設置してください。ただし、直接テレビの上に置くと、振動によりテレビ画面が乱れることがありますのでラックや棚などに設置してください。
- サラウンドスピーカー（Ⓓ左、Ⓔ右：SB-FS30）
  視聴位置の左右横またはやや後ろに設置してください。
- サブウーハー（Ⓕ：SB-WA70）
  後面側に5 cm以上の空間があくように設置してください。置く場所によって低域の周波数特性が変化します。部屋の隅に置くと音量が増加します。

サラウンドバックスピーカーⒼ（別売り）を設置する場合

- サラウンドスピーカー（Ⓓ左、Ⓔ右：SB-FS30）
  視聴位置の左右横に設置します。
- サラウンドバックスピーカー（Ⓖ：SB-PC70A）（別売り）
  視聴位置の真後ろで1 mほど高く設置してください。

■よりよい音響効果を得るための設置

スピーカーの設置方法によっては、低音の量や音像定位など、音質が変わる場合がありますので、以下のことを参考にして設置してください。

- 平らで安定した場所に設置してください
- 床、壁、コーナーに近づけて設置すると低音が増えます
- 堅い壁やガラス窓には、厚地のカーテンなどを掛けることをおすすめします

■テレビに色ムラが生じた場合、テレビとの距離を離す

- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステム<防磁設計（JEITA）>＊ですが、設置の仕方によっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15 分〜30 分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを更に離してご使用ください。
- 近くに磁石等磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- テレビの種類や画面の大きさによっては、画面へ影響する場合があります。テレビから離してご使用ください。

＊「防磁設計（JEITA）」とは社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

■次のような設置場所は避けてください。

- 直射日光のあたる場所など温度が高いところ
- 振動の多いところや湿気の多いところ

■磁気の影響を受けやすいものは、近づけないでください

スピーカーの磁気の影響で、キャッシュカードや定期券、時計などが正しく働かなくなることがあります。

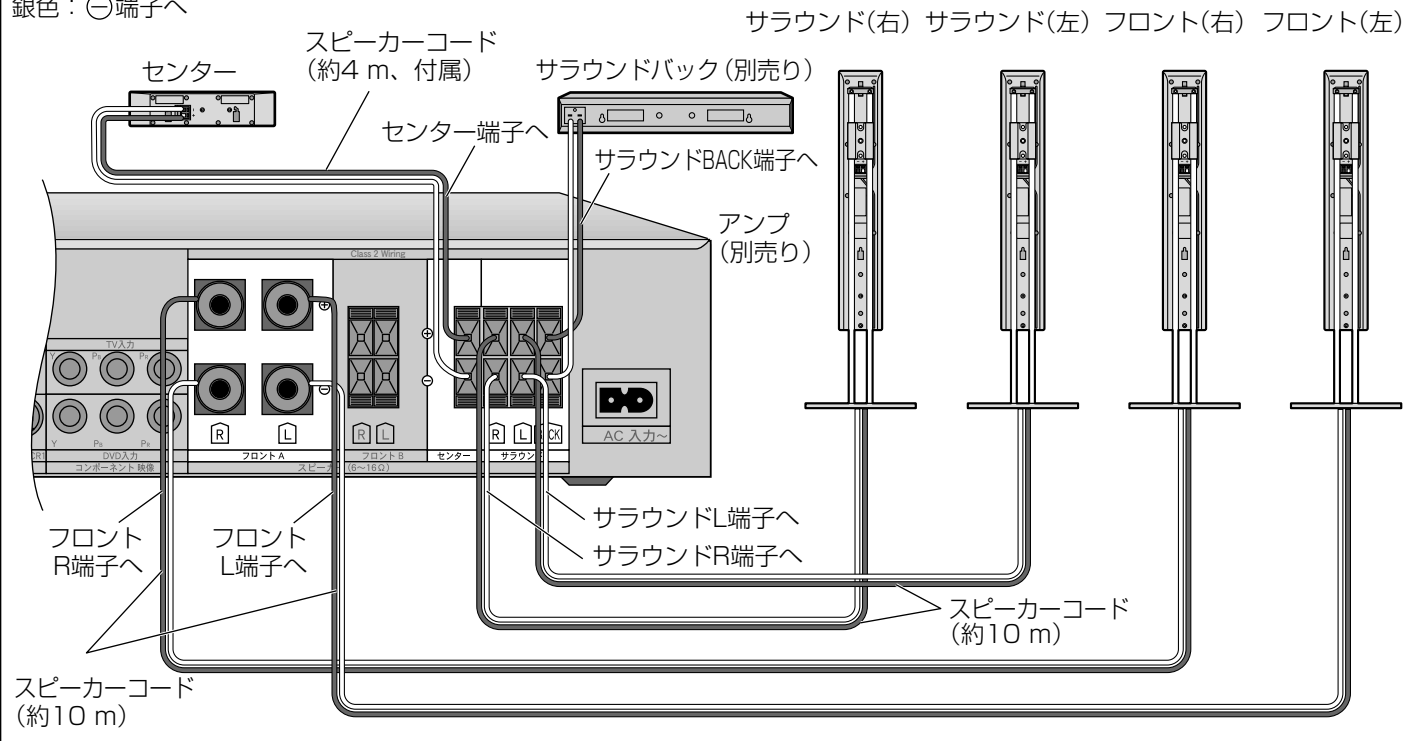
アンプへの接続のしかた

センタースピーカー（SB-PC30）、フロントおよびサラウンドスピーカー（SB-FS30）

■本機のインピーダンスと許容入力

インピーダンス：6 Ω
許容入力：100 W（RATED）
本機が接続できるアンプは、定格出力が100 W（インピーダンスが6 Ωのとき）またはそれ以下のものに限ります。
この定格以上のアンプを使用すると、過大入力による異常音が発生したり、アンプやスピーカーが破損したり、火災の危険が生じる場合があります。もし、破損が生じたり演奏中に異常が生じたときは、システムの電源コードを抜いて専門のサービスマンにご相談ください。
なお、アンプによっては複数の定格出力を記載しているものがありますのでよくご確認ください。

■接続の前に

- アンプの電源を切ってください。
- インピーダンスが6 Ωのスピーカーに適合したアンプ（別売り）をご使用ください。

- スピーカーコードを接続した状態でスピーカーを移動しないでください。ショートなどの原因になることがあります。
- スピーカーコードの配線処理は、束ねてひもでくくるなどして、確実に行ってください。

■使用上のお願い

●大きな音量で連続使用しない
スピーカー特性の劣化や寿命が極端に短くなる原因になることがあります。

●通常の使用時でも以下のような場合は、スピーカー破損の原因になることがありますので、音量を下げてご使用ください。

- 再生音が歪んだとき
- マイクやレコードプレーヤーのハウリング音、FM放送の局間ノイズ、発振器やテストディスク、電子楽器など、大きな信号が連続して加わるとき
- 音質調整をするとき
- 電源ボタンを入／切するとき

●保護回路について
本機には保護回路が備わっています。アンプからパワーが強すぎるなどの異常な信号が入ってきたときは、保護回路が働いて自動的に信号入力が遮断されます。

• 再生中、音が急に途切れたら・・・
❶ アンプの音量を下げる
❷ 再生ソースや接続に異常（ショートなど）がないか確かめる
もし異常がなければ、数分後に保護回路が解除され音が出るようになります。

• 保護回路が解除された後は・・・
アンプの音量を上げすぎないようにしてください。

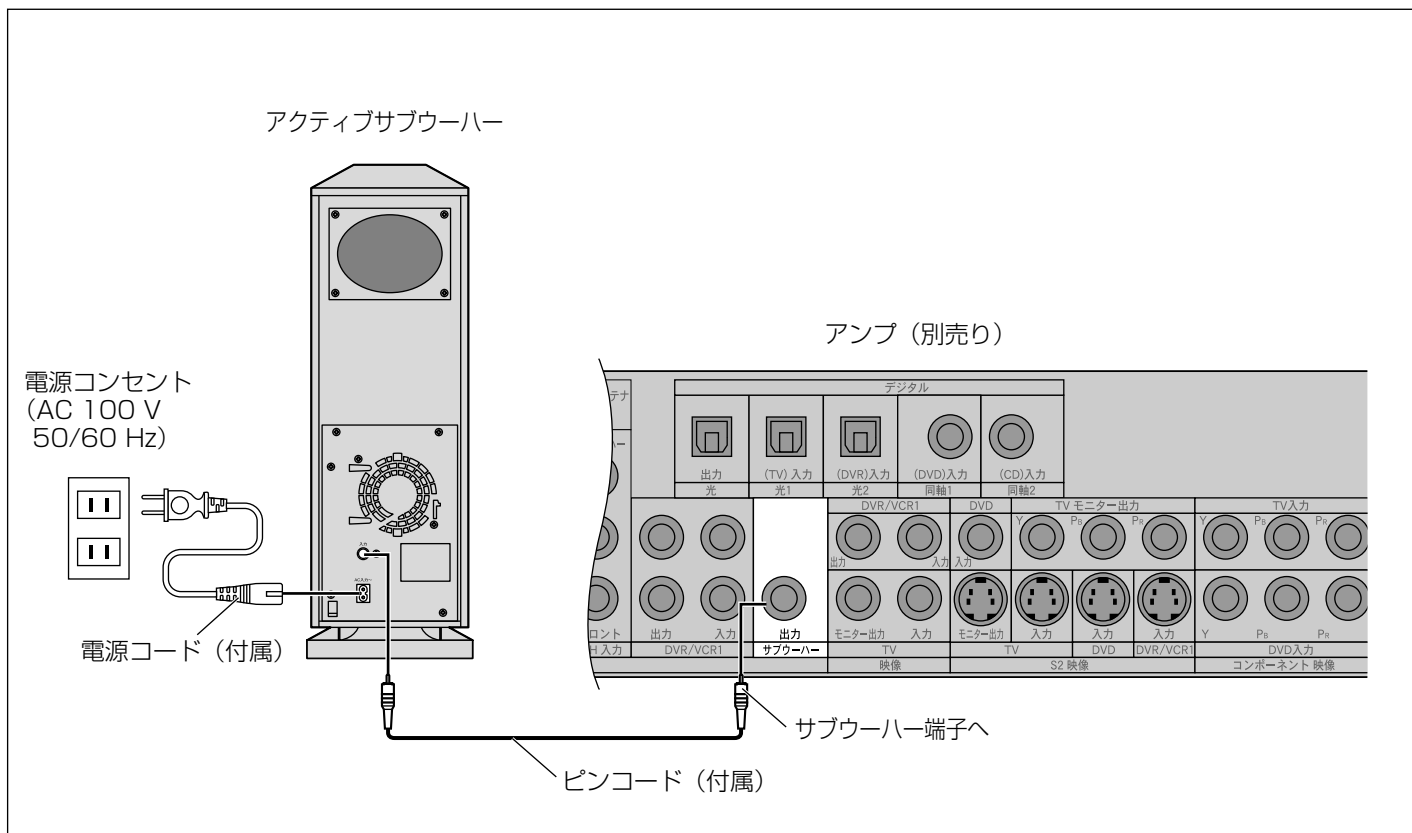
アンプへの接続のしかた

アクティブサブウーハー（SB-WA70）

■接続の前に

- アンプの電源を切ってください。
- サブウーハー用のピンタイプ出力端子を備えたアンプ（別売り）をご使用ください。

■接続

- 全てのコードを接続した後に、電源コードを接続してください。

■使用上のお願い

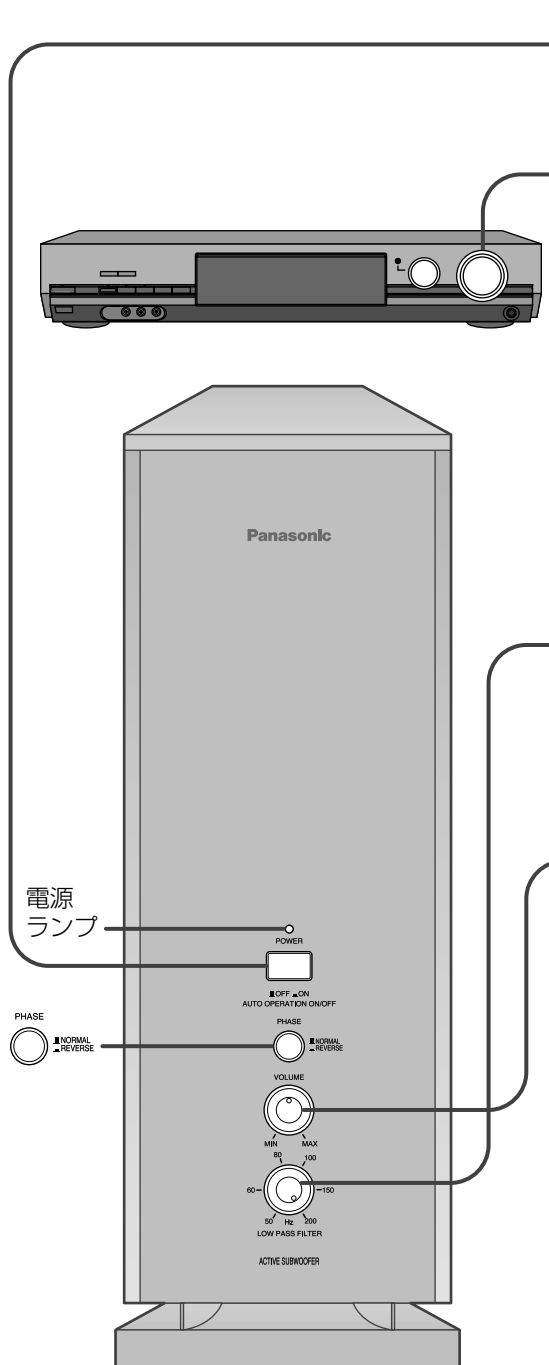
●音量を上げすぎないでください
音量を上げすぎると、音がひずみ、スピーカーの寿命が短くなる原因になることがあります。

●保護回路について
本機には保護回路が備わっています。異常に温度が高い場所で使用したり、本機内部に異常が生じた場合、保護回路が働いて出力を遮断することがあります。
保護回路が解除されるまでには、1時間ほどかかる場合があります。

- **再生中、音が急に途切れたら・・・**

❶ アンプの音量を下げる
❷ 本機の電源を“ ▇ OFF”にする
❸ 使用場所の温度や接続に異常がないか確かめる
❹ 異常があれば原因を解消し、本機の電源を“ ▂ ON”にする

- **それでも直らない場合は・・・**
電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

アクティブサブウーハーの使いかた

電源ランプ

1 [POWER] を押して“▂ ON”にする

- 電源が入り、電源ランプが点灯（緑色）します。

2 接続したアンプなどを操作して音を出し、フロントスピーカーなどの音量を調節する

- アンプ等の説明書をご覧ください。

お願い

アンプ側で低音を増強しないでください。
アンプ側で低音を増強すると音がひずみやすくなります。

お知らせ

アンプのボリュームを“0”（最小位置）にした状態が、約8分間以上続いた場合には、自動的に入力待機状態（電源ランプは赤色に点灯）になります。アンプのボリュームを上げていくと、自動的に動作状態（電源ランプは緑色に点灯）になります。
但し、接続するアンプからのノイズ等の影響により動作状態を継続する場合があります。

3 [LOW PASS FILTER] を回して、本機が再生する周波数領域を調節する

- 周波数特性変化（☞下記）を参考にしてください。
- 接続したアンプで、サブウーハーの周波数領域を調節する場合、本機は“200 Hz”に設定してください。

4 [VOLUME] を回して、本機の音量（低音）を調節する

- 最小位置“MIN”から徐々に回し、低音がひずまない範囲で設定してください。
- 周波数特性変化（☞下記）を参考にしてください。

本機とフロントスピーカーの音のつながりが不自然なときは

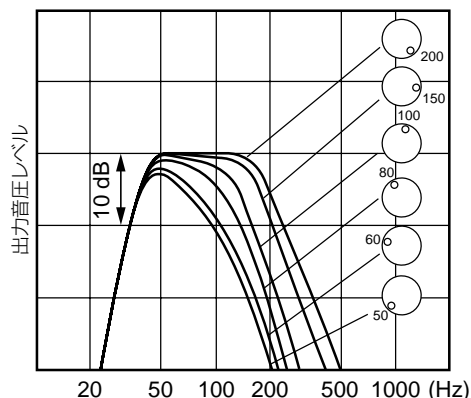
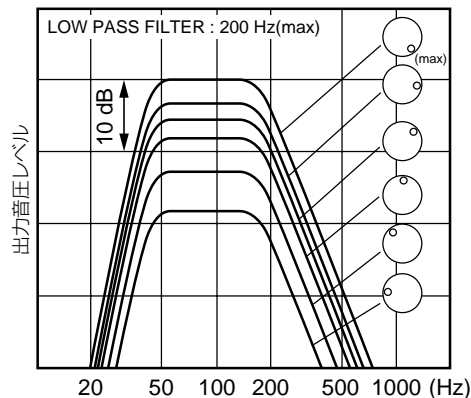
[PHASE] を押して、位相を切り換える

▆ NORMAL：入力信号と出力の位相が同じ

▂ REVERSE：入力信号と出力の位相が逆

終わるときは、[POWER] を押して“▆ OFF”にする

- 再度使用するときは、[POWER] を押して“▂ ON”にするだけで調節の必要はありません。
- スピーカーの設置を変更した場合は、再度調節をやり直してください。

■ LOW PASS FILTER による周波数特性変化

■ VOLUME による周波数特性変化

主な仕様

■スピーカーシステム（SB-FS30）

型式	2ウェイ3スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	6.5 cmコーン型×2
ツイーター	6 cmリングシェープドドーム型
インピーダンス	6 Ω
許容入力（IEC）	200 W（MAX） 100 W（RATED）
出力音圧レベル	84 dB/W（1.0 m）
クロスオーバー周波数	5 kHz
再生周波数帯域	100 Hz ～ 50 kHz（－16 dB） 120 Hz ～ 45 kHz（－10 dB）
寸法（幅×高さ×奥行）（スタンド含む）	240 mm×678 mm (MIN) ～1138 mm (MAX) ×240 mm
質量	約 4.1 kg

■スピーカーシステム（SB-PC30）

型式	2ウェイ3スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	6.5 cmコーン型×2
ツイーター	6 cmリングシェープドドーム型
インピーダンス	6 Ω
許容入力（IEC）	200 W（MAX） 100 W（RATED）
出力音圧レベル	83 dB/W（1.0 m）
クロスオーバー周波数	7 kHz
再生周波数帯域	110 Hz ～ 50 kHz（－16 dB） 125 Hz ～ 45 kHz（－10 dB）
寸法（幅×高さ×奥行）	320 mm×97 mm×93 mm
質量	約 1.5 kg

■アクティブサブウーハー（SB-WA70）

●スピーカー部

型式	1ウェイ1スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	17 cmコーン型
出力音圧レベル	80 dB/W（1.0 m）
再生周波数帯域 （アンプ込み）	32 Hz ～ 300 Hz（－16 dB） 38 Hz ～ 240 Hz（－10 dB）

●アンプ部

定格出力（全高調波ひずみ率 0.9 %）	100 W（6 Ω）
入力感度/入力インピーダンス	300 mV/33 kΩ （RCAジャック）
位相切換	NORMAL/REVERSE（切換）
ローパスフィルター	50～200 Hz 連続可変

●本体総合

電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	140 W
寸法（幅×高さ×奥行）	162 mm×457 mm×420 mm
質量	約 10.8 kg

注）この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性―第3-2部：限度値―高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20 A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。
- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

保証とアフターサービス

よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ

などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ

お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、スピーカーシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

もう一度取扱説明書をよくお読みいただき、ご確認のうえ、直らないときは、お買い上げの販売店へご連絡下さい。

● 保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。次の修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容			
品名	スピーカーシステム	お買い上げ日	年　月　日
品番	SB-TP30	故障の状況	できるだけ具体的に

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

松下電器産業株式会社および松下グループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、ナショナル パナソニック製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
   なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。
3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。http://panasonic.jp/support/

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 0120-878-365（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787

Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

北海道地区

地域	所在地	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎ (011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎ (0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎ (0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎ (0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話
青森	青森市第二問屋町3-7-10	☎ (017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎ (018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎ (019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎ (022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎ (023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎ (0243)34-1301

首都圏地区

地域	所在地	電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎ (028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎ (027)352-1109
茨城	つくば市花畑2丁目8-1	☎ (029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎ (048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎ (043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎ (03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎ (055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎ (045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎ (025)286-0171

中部地区

地域	所在地	電話
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎ (076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎ (076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎ (0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎ (0263)86-9209
静岡	静岡市西島765	☎ (054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎ (052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎ (0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎ (058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎ (0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎ (059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎ (077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎ (075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎ (06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎ (0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎ (073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎ (078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎ (0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎ (0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎ (0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎ (0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎ (0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎ (086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎ (082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎ (083)986-4050

四国地区

地域	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎ (087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎ (088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎ (088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎ (089)971-2144

九州地区

地域	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎ (092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎ (0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎ (095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎ (097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎ (0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎ (096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎ (0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎ (099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎ (0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎ (098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0105

Panasonic® スピーカーシステム SB-TP30 取扱説明書

愛情点検　長年ご使用のスピーカーシステムの点検を！

こんな症状はありませんか	
	• 煙が出たり、異常なにおいや音がする • 音が出ないことがある • 正常に動作しないことがある • 商品に破損した部分がある • その他の異常や故障がある

このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ

おぼえのため記入されると便利です

お買い上げ日	年　月　日	品　番	SB-TP30
販売店名	☎（　　）　–	お客様ご相談窓口	☎（　　）　–

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒571-8504　大阪府門真市松生町1番15号

RQT7749-2S

M0504TK2025